

# 事業報告

(平成23年4月1日～平成23年5月31日)

当財団は、平成3年7月18日に設立され、奈良先端科学技術大学院大学の行う教育研究、国際交流、学術研究成果普及等の活動を支援するとともに、産学官交流、地域交流、情報発信といった科学技術の普及啓発を図る事業を行い、もって我が国の科学技術の発展に寄与することを目的として事業を運営してきました。

そして、平成20年12月1日の公益法人制度改革関連法の施行に伴い、当財団は平成22年12月24日に公益財団法人への移行認定の申請を行い、平成23年5月26日に認定を受け、6月1日をもって「財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団」から「公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団」に移行いたしました。

よって、本報告書では、平成23年度の事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）のうち、旧法人（財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団）として活動した4月1日から5月31日までの2ヶ月間についての事業報告を行います。

当期中、当財団は大学院大学が持つ斬新かつ優れた特性及び機能が最大限に発揮されるよう、大学院大学に対する各種の支援事業の助成を決定しました。具体的には、研究費助成など教育研究活動支援、海外派遣や外国人留学生入学助成など国際交流活動支援、「NAIST東京フォーラム」の開催など学術研究成果の普及活動支援、さらに、NAIST最優秀学生賞や学術賞などアワードに対する助成等です。

また、先端科学技術の普及啓発事業については、産学官連携推進と地元産業界の発展への寄与を目的に、大学院大学と地元の中小企業が連携した新産業の創出に向けた取り組みを支援する「NAIST発 新産業創出支援事業」の助成を決定しました。

一方、地域との交流を目的とした事業としては、「けいはんなプラザ・プチコンサートin高山」の開催をはじめ、子供たちに科学の面白さ、楽しさを伝え、科学をより身近に感じてもらうことを目的に、大学院大学から講師を迎えて、体験型イベント「NAISTサイエンス塾」を実施しました。

このほか、情報発信事業として、インターネット（ホームページ）により、当財団の活動や高山サイエンスプラザの広報を行いました。

各事業の助成金決定や実績等については、以下のとおりです。

## 1. 大学院大学に対する支援事業

平成23年4月15日に支援事業選考委員会が開催され、平成23年度の支援事業の内容を以下のとおり決定いたしました。

支援総額35百万円のうち、当期中に16百万円の助成金を交付いたしました。

### (1) 教育研究活動に対する支援事業

#### ①教育研究活動助成

11件 16,800千円

氏名	所属・職名	研究テーマ
北野 健	情報科学研究科 構造生物学講座 助教	遺伝病の原因タンパク質によるテロメア維持の構造研究

久保 孝富	情報科学研究科 論理生命学講座 博士後期課程 3年	多チャンネル筋電位信号を利用した構音 障害者への意思伝達支援デバイスの研究 開発
荻野 肇	バイオサイエンス研究科 発生ゲノミ クス研究グループ 特任准教授	ヒストン脱メチル化酵素を用いた細胞リ プログラミング法の研究
大津 厳生	バイオサイエンス研究科 細胞機能学 講座 助教	大腸菌における新規システイン合成経 路の全容解明と発酵生産への応用
石川 保幸	バイオサイエンス研究科 細胞構造学 講座 助教	シナプス・タギングの電気生理学的アプ ローチによる解析
田所 竜介	バイオサイエンス研究科 分子発生生 物学講座 助教	新規ライブイメージング法を用いたメラ ニン色素輸送の解析
荒井 光徳	バイオサイエンス研究科 細胞構造学 講座 博士後期課程 3年	光学的手法による神経変性疾患の幹細胞 治療
矢野 嵩典	バイオサイエンス研究科 細胞機能学 講座 博士後期課程 1年	超低栄養性細菌の「低エネルギー型」CO2 固定系に関する研究 ～特にC1化合物か らC2化合物への変換に着目して～
山本 愛士	物質創成科学研究科 量子物性科学講 座 准教授	超高真空下表面状態制御と発光計測によ るバンド湾曲と発光の関係解明
森本 積	物質創成科学研究科 反応制御科学講 座 准教授	二酸化炭素の合成化学的新規利用法の創 出
柳澤 祐樹	物質創成科学研究科 反応制御科学講 座 博士後期課程 1年	超分子不斉[2+2]光付加環化反応の研究

## ②新任教授スタートアップ助成

4件 4,000千円

氏名	所属・職名	研究テーマ
安本 慶一	情報科学研究科 ユビキタスコンピュ ーティングシステム講座 教授	屋内位置推定のための無線センサネット ワークの構築
井上 美智子	情報科学研究科 ディペンダブルシス テム学講座 教授	システムのディペンダビリティ向上 に繋がる様々な手法の研究・開発
中村 哲	情報科学研究科 知能コミュニケーション 講座 教授	多言語会議のための音声翻訳を用いたコ ミュニケーション支援技術の研究
藤川 和利 (*1)	情報科学研究科 情報基盤システム学 講座 教授	コンピュータネットワークに関する 基盤技術・応用技術の研究

\*1 大学院大学の要請に応じ、平成23年度期初では1件のテーマ未定のまま助成予算を確保。  
6月に大学院大学からの申請を支援事業選考委員会が承認し決定。

## (2) 国際交流活動に対する支援事業

①海外派遣支援	23件	3,850千円
②外国人留学生支援	2件	2,652千円
③大学間交流活動支援	3件	2,570千円

(3) 学術研究成果の普及に対する支援事業

① 研究成果普及支援

7件 3,828千円

名称	代表者	参加対象	目的
MCFGに関する第2回国際ワークショップ 【開催予定】 平成23年9月9日～10日	情報科学研究科教授 関 浩之	国内外の研究者・学生	自然言語の構文記述や生物系列の高次構造予測にも応用されている形式文法であるMCFG（関教授らが提案）について、研究者間で情報交換が行え、MCFGの数学的諸性質の解明の糸口を探るための国際集会を開催する。
NAIST東京フォーラム 【開催予定】 平成23年10月20日	学長 磯貝 彰	産業界、官公庁、大学の研究者・学生	NAISTの最新の研究成果を発表し、教育研究・産学連携活動を広く紹介するとともに、首都圏での広報活動・学生募集を積極的に行う。
[20周年記念事業] ソフトウェア情報学国際週間 【開催予定】 平成23年11月1日～4日	情報科学研究科教授 松本 健一	ソフトウェア関連の研究開発に従事する研究者・学生、及びソフトウェア製品の品質向上等に取り組む実務者	NAISTのソフトウェア情報学分野の研究成果を、理論と実践の両面において広く公開するとともに、国内外及び産学における研究開発やベストプラクティスの最新動向について学習・議論する場を提供する。
[20周年記念事業] 創立20周年記念シンポジウム(仮称) 【開催予定】 平成23年11月～12月	学長 磯貝 彰	国内外の研究者・学生	NAISTの創立20周年にあたり、先端科学技術分野におけるこれまでの教育研究活動の成果並びに世界に認知された教育研究拠点としての本学の今後の活動方針を広くアピールする。
成果公开发表会「奈良先端バイオの人材育成力」(仮称) 【開催予定】 平成24年2月	バイオサイエンス研究科長 横田 明徳	大学生(学部3年) 50名程度	NAISTの研究成果の発表会を実施し、研究及び教育内容への理解を促し、研究教育水準の高さを伝えたい。(これまでの3年間に5回実施)
NAIST物質創成科学研究科公開研究業績報告会 【開催予定】 平成24年3月10日	物質創成科学研究科長 大門 寛	大学生、高校生、中学・高校の理科教諭、社会人、地域住民	NAISTの最先端の研究内容と設備を広く紹介し、先端科学への興味と理解を深めるとともに、物質創成科学研究科を理解してもらう。また、地域住民に研究内容をわかりやすく紹介し、理解を促すとともに協創の関係を築く。
NAISTの一般公開(オープンキャンパス) 【開催予定】未定	学長 磯貝 彰	地域住民	各研究室の最先端の研究内容の紹介や最新鋭の研究設備等のデモンストレーションを行うことにより、先端科学技術の振興に対する地域の人々の理解と関心を高める。

(4) NAIST最優秀学生賞等アワード事業

平成24年3月に開催される学位記授与式において、各研究科の博士前期課程並びに博士後期課程ごとにNAIST最優秀学生賞を授与するとともに、各研究科の教員に対する表彰を行う予

定です。

①NAIST最優秀学生賞	13件	780千円
②教員表彰（学術賞等）	3件	520千円

## 2. 先端科学技術の普及啓発事業

### (1) NAIST発 新産業創出支援事業

地元の中小企業・ベンチャー企業等が、NAISTと連携して、NAISTの優れた研究開発成果や技術シーズを活用した新産業の創出に向けた取り組みを行う場合に、研究開発に要する経費を支援する「NAIST発 新産業創出支援事業」に関しては、以下のとおり支援する研究開発テーマを決定し、当期中に2,960千円の助成金を交付いたしました。

①平成23年度支援テーマ 3件 2,960千円

研究開発テーマ	NAIST研究者	企業名等
からだのネジレ計測装置の実用化	情報科学研究科 教授 松本 健一	合同会社EASE創研 (株)三立
有用アミノ酸を高生産する酵母の開発と バイオエタノール・泡盛製造への応用	バイオサイエンス研究科 教授 高木 博史	バイオアカデミア(株)
フレキシブルデバイスの実現に向けた半 導体薄膜の低温形成技術	物質創成科学研究科 教授 浦岡 行治	(株)イー・スクエア

## 3. 地域交流等事業

### (1) 地域交流事業

地域の人々に科学に親しんでもらうため、年度計画を策定し、各種のイベントを通じた交流活動を実施しています。

#### ①けいはんなプラザ・プチコンサート in 高山

開催日	第66回	平成23年	4月18日	(月)	
	第67回	平成23年	5月16日	(月)	
	第68回	平成23年	6月20日	(月)	開催予定
	第69回	平成23年	7月19日	(火)	〃
	第70回	平成23年	8月22日	(月)	〃
	第71回	平成23年	9月20日	(火)	〃
	第72回	平成23年	10月17日	(月)	〃
	第73回	平成23年	11月5日	(土)	〃
	第74回	平成23年	12月19日	(月)	〃
	第75回	平成24年	1月16日	(月)	〃
	第76回	平成24年	2月20日	(月)	〃
	第77回	平成24年	3月19日	(月)	〃

場 所 高山サイエンスプラザ

目 的 精華・西木津地区をはじめとする関西文化学術研究都市の各クラスターとの交流を図り、高山地区を活性化することを目的として定期開催しています。

参加者 第66回 47人 第67回 57人

## ②NAISTサイエンス塾

開催日	第37回	平成23年	4月	9日	(土)	
	第38回	平成23年	5月	14日	(土)	
	第39回	平成23年	6月	11日	(土)	開催予定
	第40回	平成23年	7月	9日	(土)	〃
	第41回	平成23年	9月	10日	(土)	〃
	第42回	平成23年	10月	8日	(土)	〃
	第43回	平成23年	12月			〃
	第44回	平成24年	1月			〃
場 所	高山サイエンスプラザ					
目 的	子供たちに科学の面白さ、楽しさを伝え、科学をより身近に感じてもらいます。					
内 容	概ね毎月第二土曜日に、NAIST関係者(学生・教職員)を講師に少人数の科学実験教室を開講しています。					
参加者	第37回	62人	(募集人数48人)			
	第38回	68人	(〃 60人)			

## ③夏休み科学実験教室

開催日	平成23年8月21日(日) 開催予定					
場 所	木津川市加茂プラネタリウム館					
目 的	夏休み中の子供たちに科学の面白さ、楽しさを伝え、科学をより身近に感じてもらいます。					
内 容	子供たちがプラネタリウム作りに挑戦します。					
募集人数	75人					

## ④高山サイエンスタウンフェスティバル

開催日	平成23年11月5日(土) 開催予定					
場 所	高山サイエンスタウン内の各研究施設					
目 的	地区の振興と、地域の人々の研究施設への理解と関心を高めることが目的です。					
内 容	大学院大学や地区内の企業が、施設の一般公開や様々なイベントを実施します。高山サイエンスプラザでは、小学生と保護者が科学実験や工作を体験する「親子科学教室」を開催します。					

## (2) 情報発信事業

### ①インターネットによる情報発信

支援財団の事業内容や高山サイエンスプラザの紹介等を目的として、インターネット(ホームページ)による情報発信を続けました。

## 4. 高山サイエンスプラザ及び駐車場の運営

高山サイエンスプラザ及び高山サイエンスタウン駐車場の運営状況は以下のとおりです。

### (1) 高山サイエンスプラザ見学の状況

高山サイエンスプラザの団体見学者は、小学校2校(約230人)でした。

### (2) レンタルオフィス及び研究者用住戸の状況

平成23年5月末現在、13区画あるレンタルオフィスのうち、4区画にテナント4社が入居しています。また、17戸ある研究者用住戸は、1世帯(外国人世帯)の利用がありました。

### (3) 会議室・研修室等の利用状況

大研修室は、企業の研修会に貸し出したほか、NAISTサイエンス塾など、地域交流等事業の会場として使用しました。また、小研修室及び会議室は、企業の研修会のほか、地域の団体の活動等に貸し出しました。

### (4) 高山サイエスタウン駐車場の利用状況

駐車定期券による利用（1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月定期券合計で延べ585台）と1回単位の利用を合わせ、駐車区画ベースで概ね8割程度で推移しました。

## 5. その他

当期中に、理事会及び評議員会は開催されておりません。